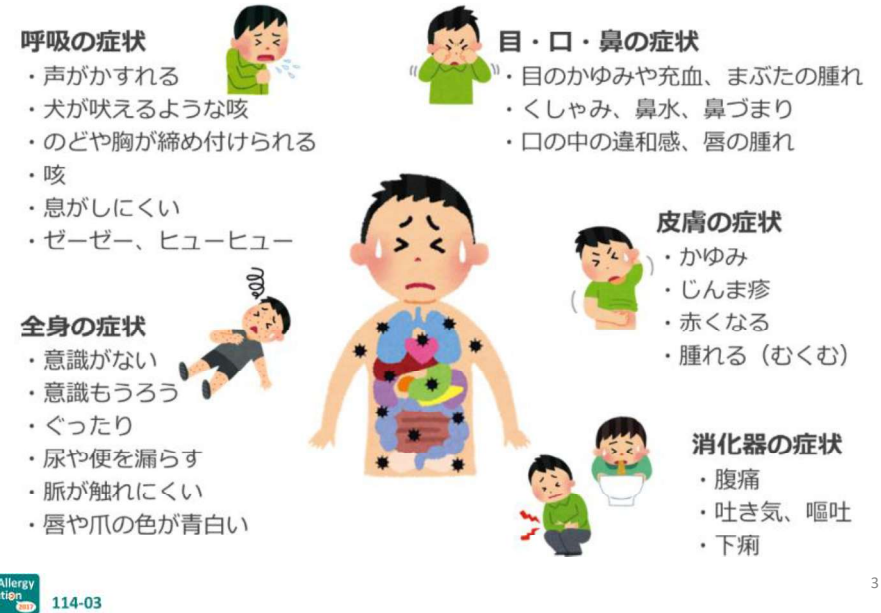


食物アレルギー症状への 緊急時対応とエピペン®について

千葉愛友会記念病院
千葉大学附属病院アレルギーセンター
石黒 奈緒

1

さまざまなアレルギー症状



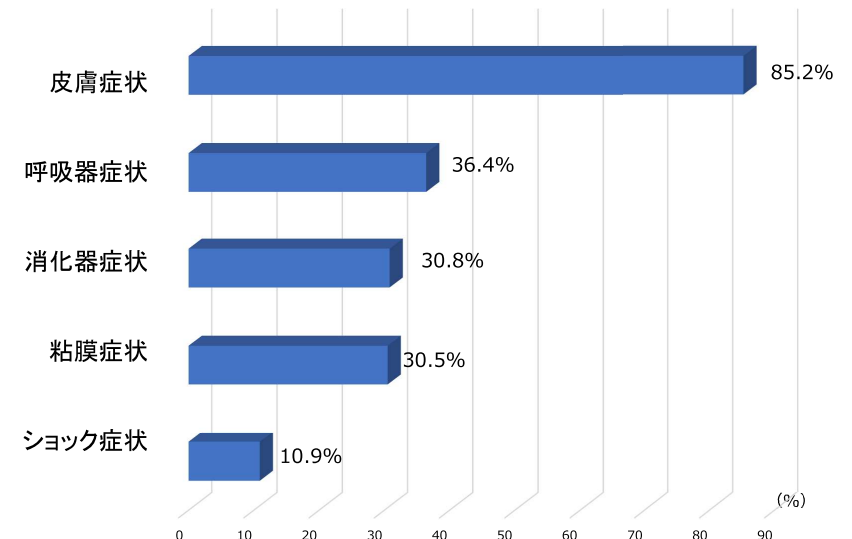
3

本日の内容

- ◆アレルギー症状について
- ◆アレルギー症状に使用する薬剤
- ◆アドレナリン自己注射（エピペン®）
- ◆緊急時対応の流れ
- ◆さいごに

2

即時型食物アレルギー症状出現頻度



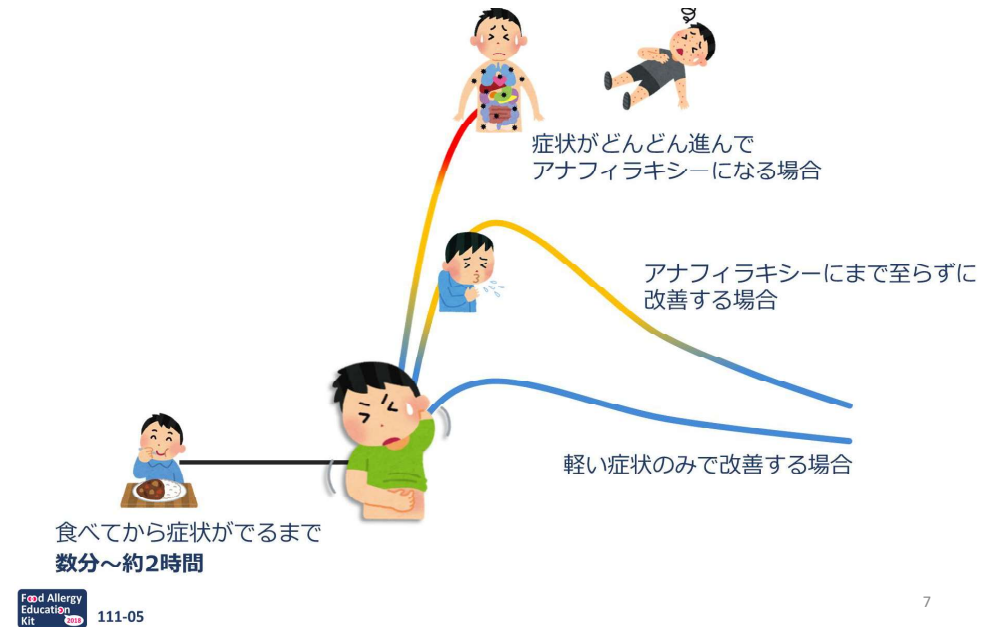
N=6080
杉崎千鶴子他.アレルギー2023;72:1032-7

アナフィラキシーの定義

- 重篤な**全身性の過敏反応**であり、通常は**急速に発現し死に至ることもある**。
- 重症のアナフィラキシーでは、**典型的な皮膚症状や循環性ショックがなくとも、致死的となる気道、呼吸、循環器症状が認められることがある**。

アナフィラキシーガイドライン2022 5

症状の経過を予測することはできない



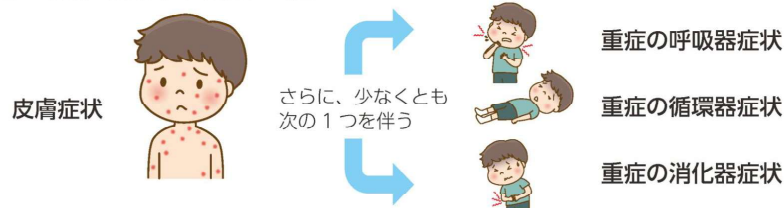
7

アナフィラキシーの診断基準

©日本小児アレルギー学会
アレルギーの診断・治療・予防に関するガイドライン

いずれかを満たす場合、アナフィラキシーである可能性が非常に高い

1. 皮膚、粘膜、またはその両方の症状（全身性のじんましん、痒みまたは紅潮、口唇・舌・口蓋垂の腫脹など）が急速に（数分〜数時間で）発症した場合



2. 典型的な皮膚症状を伴わなくても、患者さんにとって原因食物またはその可能性が極めて高いものを食べた後、血圧低下または気管支攣縮または喉頭症状が急速に（数分〜数時間で）発症した場合



6

使用される治療薬

（即時型食物アレルギー症状が出現した場合）

抗ヒスタミン薬（効果出現まで30分〜1時間）

皮膚のかゆみ、赤み、じんま疹に有効だが、アナフィラキシーの場合には十分な効果は期待できない

気管支拡張薬（効果出現まで内服：30分以上、吸入：速やか）

軽い咳やぜん鳴には有効だが、のどの腫れ（喉頭浮腫）による咳や呼吸困難等の症状に対しては効果は期待できない。

ステロイド薬（効果出現まで数時間）

即効性を期待することはできない。遷延する症状の二相性反応を防止することが期待されて使用されるが、効果は立証されていない。

8

アドレナリン自己注射薬「エピペン®」

- アナフィラキシー治療の**第一選択薬**
- 効果は5分以内に認められるが、**持続時間は20分程度**
- エピペン注射後は直ちに医療機関へ搬送し、医師による診療を受ける
- 症状進行を**一時的に緩和し**、ショックを防ぐための**補助治療剤**



9

エピペン®の効果

- **血圧**を上昇させる（低血圧・ショックの防止と緩和）
- **上気道閉塞**の軽減
- **下気道閉塞**（あるいは狭窄）の軽減
- **蕁麻疹**および**血管性浮腫**の軽減
- **腹痛**の緩和

10

エピペン®の保管・管理

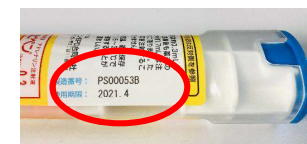
- いつでも使えるよう常に携帯する
- 直射日光や高温下での保管は避ける（15〜30℃での保存が望ましい）
- 幼児の手の届かないところで保管する
- 保管場所は関わる大人全員が把握する（とくに小児）
- 使用期限を確認しておく



直射日光・高温下は避ける



冷所では保管しない



使用済みあるいは未使用のエピペン®は医療機関で回収し廃棄する

11

エピペン®使用に関して

原則、処方された本人が使用する

- ◆ 救命の現場に居合わせた教職員が「エピペン®」を自ら注射できない状況にある児童生徒に代わって注射することは**緊急やむを得ない措置として行われるものであり、医師法違反にならない**

平成25年11月医政医発1127号第1号 厚労省医政局医事課長通知

- ◆ 刑事・民事の責任についても、人命救助の観点からやむを得ず行った行為であると認められる場合には、関係法令の規定によりその責任が問われない。

食物アレルギー診療ガイドライン2021

12

エピペン®の使い方

①ケースから取り出す

ケースのカバーキャップを開け本体を取り出す



②しっかり握る

オレンジ色のカバーを下に向け利き手で**グー**で握る



エピペン®の上下先端のどちらにも親指をかけないように握ってください。

③青色の安全キャップを外す

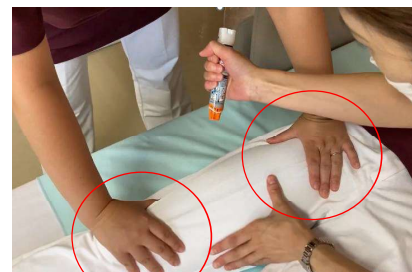


安全キャップ

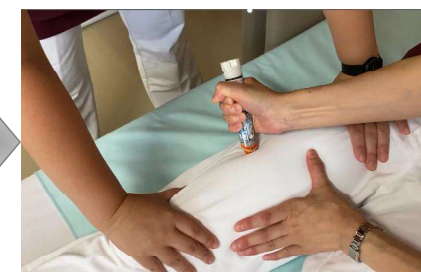
13

足の固定方法

- ・ 動かないようしっかり押さえる
- ・ 子どもは激しく動く可能性もある
- ・ 事前に押さえ方の練習をしておく



太ももの付け根と膝関節をしっかりと固定



介助者らと声を掛け合い、手順を確認しながら

15

エピペン®の使い方

④ 太もも外側に注射



- ・ エピペン®の先端を軽く当て、カチッと音がするまで**強く押しこみ、5つ数える。**
- ・ 衣類の上からでも使用できる

⑤確認する

使用前 使用後



エピペン®を太ももから離し**オレンジ色のカバーが伸びているか確認。**
伸びていない場合は④に戻る

⑥ 注射部位をマッサージ



使用済みのエピペン®は受診先の医療機関へ持参

14

エピペン®使用時のポイント

- ・ **常に携帯**する
- ・ 日頃から**手技の練習**をしておく
- ・ **使用すべきタイミング**を理解しておく
- ・ 動くことを前提に、**しっかり固定**をする
- ・ 介助者の**分担**（注射、足や体の固定、声掛けなど）
- ・ エピペン®使用後は**必ず救急車**を呼ぶ



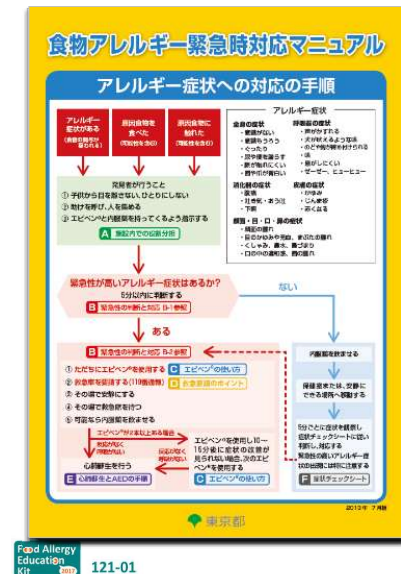
16

緊急時対応マニュアルの構成と特徴

アレルギー症状への対応の手順

- A 施設内での役割分担
- B 緊急性の判断と対応
- C エピペンの使い方
- D 救急要請のポイント
- E 心肺蘇生とAEDの手順
- F 症状チェックシート

緊急時に備えるために



VIATRIS エピペン®ガイドブック <https://www.epipen.jp/>

緊急時対応への備え

2012年 東京都調布市の小学校
小学5年生の女子児童が学校給食の誤食によるアナフィラキシーショックで亡くなる事故が発生

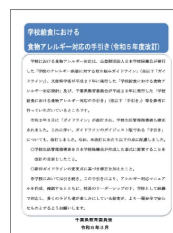
各地の学校で食物アレルギーの講習会の開催や緊急時対応のマニュアル整備が進んだ



日本学校保健会
(監修：文部科学省)



厚生労働省



県教育委員会

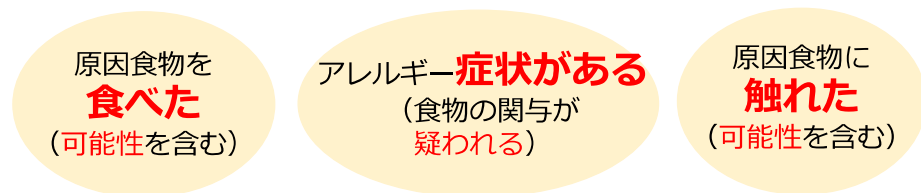


市教育委員会作成

緊急時の対応の流れ

- ステップ1 症状に気づく
- ステップ2 人を集め、役割分担
- ステップ3 緊急性を判断
- ステップ4 対応する

アレルギー症状に気づく



原因・責任追及よりまず対応を開始！

- ◆ 患者から目を離さない、ひとりにしない
- ◆ 助けを呼び人を集め、できるだけ複数人で判断や対応をする
- ◆ 症状が軽くても重症化することもあるため繰り返し観察

21

症状の訴え方はさまざま

- 同一の原因食物でも、症状は個々に異なる
- 同じ患者でも症状がいつも同じとは限らない
- 症状の訴え方には個人差がある

例えば…のどの違和感



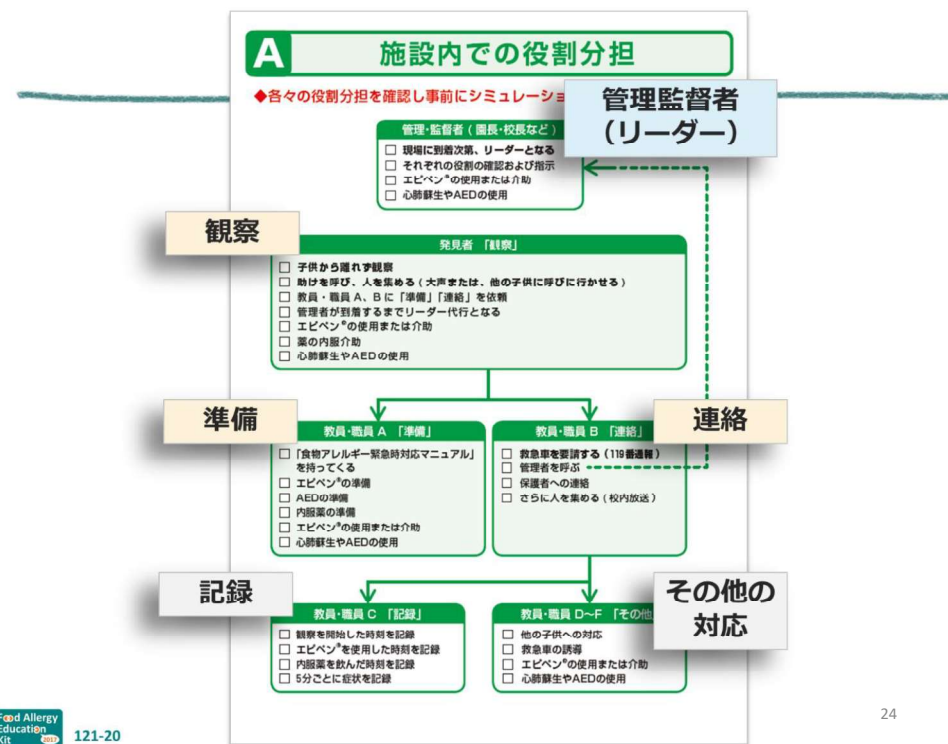
「かゆい」「痛い」「からい」
「耳を掻く」「舌や口の中を触る」

22

緊急時の対応の流れ

- ステップ1 症状に気づく
- ステップ2 人を集め、役割分担
- ステップ3 緊急性を判断
- ステップ4 対応する

23



24

緊急時の対応の流れ

ステップ1 症状に気づく

ステップ2 人を集め、役割分担

ステップ3 緊急性を判断

ステップ4 対応する

緊急性が
高い場合

B 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエビペン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】	【呼吸器の症状】	【消化器の症状】
☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 脈が触れにくいまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ ゼーゼーする呼吸 (ぜん息発作と区別できない場合を含む)	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける

- ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない!
- ④ その場で救急車を待つ
- ⑤ 可能な限り内服薬を飲ませる

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに記入・押印し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

症状チェックシート

1つでもあてはまる場合
緊急性が高いと判断する

血圧が低下している可能性が
あるため仰向けで足を15~30cm
高くする

おう吐物による窒息を防ぐため、
体と顔を横に向ける

呼吸を楽にするため、上半身を
起こし後ろに寄りかからせる

B 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエビペン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】	【呼吸器の症状】	【消化器の症状】
☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 脈が触れにくいまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ ゼーゼーする呼吸 (ぜん息発作と区別できない場合を含む)	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ① ただちにエビペン®を使用する!
⇒ C エビペン®の使い方
 - ② 救急車を要請する(119番通報)
⇒ D 救急要請のポイント
 - ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない!
 - ④ その場で救急車を待つ
 - ⑤ 可能な限り内服薬を飲ませる
- ◆ エビペン®を使用し10~15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエビペン®を使用する(2本以上ある場合)
- ◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う ⇒ E 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる
↓
保護者または、安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに記入・押印し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

症状チェックシート

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性が
あるため仰向けで足を15~30cm
高くする

安静を保つ体位



吐き気、おう吐がある場合
おう吐物による窒息を防ぐため、
体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく呼吸が止まってしまう場合



呼吸を楽にするため、上半身を
起こし後ろに寄りかからせる

症状観察のポイント(全身症状)

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくいまたは不規則
- ☐ 唇や爪が青白い

- ・ 機嫌はどうか?
- ・ 姿勢の保持が可能か?
- ・ 自発的な会話、行動は?
- ・ 周囲への反応は?

神経の症状

ぐったり(立ち上がれない・横になる・普段のように歩けない等)、意識もうろう(呼びかけても反応が鈍い)、意識がないなど

循環器の症状

脈が触れにくい、唇や爪の色が青白い(チアノーゼ)など

アナフィラキシーショックを疑う
極めて危険な状態!

症状観察のポイント（呼吸器の症状）

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸



◆目で見える

- ・ 肩呼吸をしていないか
- ・ 呼吸のたびにのど元が凹んでいないか
- ・ お腹や肋骨間がペコペコしていないか
- ・ 首をおさえていないか

◆耳をすませる

- ・ 声がかすれていないか
- ・ オットセイや犬の鳴き声はないか
- ・ ヒューヒュー、ゼーゼーがないか

29

緊急時の対応の流れ

ステップ1 症状に気づく

ステップ2 人を集め、役割分担

ステップ3 緊急性を判断

ステップ4 対応する

緊急性が
高い場合

31

症状観察のポイント(消化器の症状)

- ☐ 持続する強い(がまんできない)
お腹の痛み
- ☐ 繰り返し吐き続ける



- ・ 腹痛の**強度**
- ・ **姿勢**（お腹を押さえる、うずくまる、もぞもぞ等）
- ・ 嘔吐の**回数**
- ・ 嘔吐物の**量**
- ・ 嘔吐した後の**様子**（すっきり、ぐったり）

30

緊急性の高い症状がある場合の対応

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

➡ ① **ただちにエビベン®を使用する!** ➡ **C エビベン®の使い方**

➡ ② **救急車を要請する(119番通報)** ➡ **D 救急要請のポイント**

③ その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない!

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エビベン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエビベン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う ➡ **E 心肺蘇生とAEDの手順**

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合	吐き気、おう吐がある場合	呼吸が苦しく仰向けになれない場合
 血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする	 おう吐物による窒息を防ぐため、体と膝を横に向ける	 呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

32

救急車を要請するときのポイント

救急要請 (119番通報) のポイント

あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

① 救急であることを伝える

救急

② 救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設をあらわりの記載しておく

施設名住所

③ 「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エピペンの処方やエピペンの使用の有無を伝える

現状

④ 通報している人の氏名と連絡先を伝える

119 番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

通報者の連絡先

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

・通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく

・その際、救急隊が到着するまでの応急処置の方法などを必要に応じて聞く

住所を正確に伝える

学校の住所 を言えますか？
宿泊先の住所 を言えますか？

現在の状態を簡潔に伝える

- **エピペン®を使用した場合**
○歳 性別 食物アレルギーがあります。
アナフィラキシーに対してエピペン®を使用しました。
- **エピペン®を使用していない場合**
○歳 性別 食物アレルギーがあります。
現在の症状（経過を詳細に伝える必要はない）
エピペン®の携帯の有無を伝える。

緊急性の高い症状がある場合の対応

B-2 緊急性の高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

→ C エピペン®の使い方

② 救急車を要請する (119番通報)

→ D 救急要請のポイント

③ その場で安静にする (下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する (2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

→ E 心肺蘇生とAEDの手順

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合

吐き気、おう吐がある場合

呼吸が苦しく仰向けにできない場合

血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

おう吐による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

33

Food Allergy Education Kit 121-08

35

緊急性の高い症状がある場合の対応

B-2 緊急性の高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

→ C エピペン®の使い方

② 救急車を要請する (119番通報)

→ D 救急要請のポイント

③ その場で安静にする (下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次の

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合

吐き気、おう吐がある場合

呼吸が苦しく仰向けにできない場合

血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

おう吐による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

34

Food Allergy Education Kit 121-09

心肺蘇生とAEDの手順

E 心肺蘇生とAEDの手順

◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕事が認められるまで心肺蘇生を続ける

①反応の確認

意識がない

②通報

119番通報とAEDの手配を促す

③呼吸の確認

10秒以内で胸とお腹の動きを見る

普段通りの呼吸をしていない

④必ず胸骨圧迫！ 可能な限り人工呼吸！

30:2

ただちに救急隊に引き継ぐ

人工呼吸の準備ができたら、可能な限り人工呼吸を行う

⑤AEDのメッセージに従う

電圧が安全な範囲で、AEDの指示に従って行う

【胸骨圧迫のポイント】

①強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

②強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

③強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

【人工呼吸のポイント】

①強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

②強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

【AEDの準備のポイント】

①強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

②強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

【AEDの手順のポイント】

①強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

②強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

エピペン®の準備のために心肺蘇生の開始が遅れてはならない

呼びかけに反応がなくなり、普段通りの呼吸をしていない状態ではエピペン®の到着を待たずに心肺蘇生を開始

36

緊急時の対応の流れ

ステップ1 症状に気づく

ステップ2 人を集め、役割分担

ステップ3 緊急性を判断

ステップ4 対応する

緊急性が
高い場合

緊急性が
低い場合

B 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエビベン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

ない場合

内服薬を飲ませる

保健室または、安静に
できる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の
出現には特に注意する

F 症状チェックシート



血圧が低下している可能性が
ある（0.99/47℃を15～20分
間測る）

おう吐物による窒息を防ぐため、
体と顔を横に向けさせる

呼吸が苦しく呼吸が不規則な場合
起こし喉の奥に引っ掛かっている

F 症状チェックシート

- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆□の症状が1つでもあてはまる場合、エビベン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエビベン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エビベン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 唇が腫れにくくまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	緊急性の評価
呼吸器の症状	☐ のどや喉が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い喘ぎ込み ☐ ゼーゼーする呼吸	悪化がないか評価
消化器の症状	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 数回の軽い嘔吐 ☐ 中等度のお腹の痛み ☐ 1～2回の嘔吐 ☐ 1～2回の下痢
目・口・鼻・皮膚の症状	☐ 全身性の腫れ ☐ まぶたの腫れ	☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる) ☐ 吐き気 ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中心の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状	☐ 強いかゆみ ☐ 全身に広がるじんま疹 ☐ 全身が真っ赤	☐ 軽度のかゆみ ☐ 数個のじんま疹 ☐ 部分的な赤み

上記の症状が1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

①ただちにエビベン®を使用する
②救急車を要請する(119番通報)
③その場で安静を保つ(立たせたり、歩かせたりしない)
④その場で救急隊を待つ
⑤可能な限り内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で医療機関へ搬送

速やかに医療機関を受診

安静にし、注意深く経過観察

F 症状チェックシート

- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆□の症状が1つでもあてはまる場合、エビベン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエビベン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エビベン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 唇が腫れにくくまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	緊急性の評価
呼吸器の症状	☐ のどや喉が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い喘ぎ込み ☐ ゼーゼーする呼吸	悪化がないか評価
消化器の症状	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 数回の軽い嘔吐 ☐ 中等度のお腹の痛み ☐ 1～2回の嘔吐 ☐ 1～2回の下痢
目・口・鼻・皮膚の症状	☐ 全身性の腫れ ☐ まぶたの腫れ	☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる) ☐ 吐き気 ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中心の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状	☐ 強いかゆみ ☐ 全身に広がるじんま疹 ☐ 全身が真っ赤	☐ 軽度のかゆみ ☐ 数個のじんま疹 ☐ 部分的な赤み

上記の症状が1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

①ただちにエビベン®を使用する
②救急車を要請する(119番通報)
③その場で安静を保つ(立たせたり、歩かせたりしない)
④その場で救急隊を待つ
⑤可能な限り内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で医療機関へ搬送

速やかに医療機関を受診

安静にし、注意深く経過観察

F 症状チェックシート

- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	☐ ぐったり ☐ 意識もろうつ ☐ 尿や便を漏らす ☐ 唇が紫にいくまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	☐ 数回の軽い咳 ☐ 中重度のお腹の痛み ☐ 1～2回の嘔吐 ☐ 1～2回の下痢	☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる) ☐ 吐き気	
呼吸器の症状	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ ゼーゼーする呼吸	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	
消化器の症状	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに
医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
- 速やかに
医療機関を受診
- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する
- 安静にし、
注意深く経過観察

緊急時対応セット



- 緊急時対応体温計
- 使い捨て手袋
- メモ帳
- マスク
- エチケット袋
- タオル
- ティッシュ
- 絆創膏 三角巾・包帯 など



F 症状チェックシート

- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	☐ ぐったり ☐ 意識もろうつ ☐ 尿や便を漏らす ☐ 唇が紫にいくまたは不規則 ☐ 唇や爪が青白い	☐ 数回の軽い咳 ☐ 中重度のお腹の痛み ☐ 1～2回の嘔吐 ☐ 1～2回の下痢	☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる) ☐ 吐き気
呼吸器の症状	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ ゼーゼーする呼吸	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり
消化器の症状	☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり	☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ ☐ 目のかゆみ、充血 ☐ 口の中の腫れ、唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する
- 安静にし、
注意深く経過観察

緊急時に必要なこと

『アナフィラキシー対応には
テクニカルスキル と ノンテクニカルスキル
が必要である』

- ・食物アレルギーの知識
- ・エピペン®の手法



- ・講義やeラーニング等で正しい知識をえる
- ・エピペン®トレーナーで定期的に練習する

状況判断と連携

症状の見極め
助けの呼び方、人の集め方
エピペン®を打つときの介助
他の園児や児童への対応など



施設内でシミュレーションを行い問題点を抽出して共通認識を作り上げる

